

沖縄県教育委員会教育長 殿

沖縄県立泊高等学校
校長 上地 さとみ
(公印省略)

令和5年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

令和5年12月12日付け教県第1744号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

記

1 日時、場所、出席状況等

回数	日時	場所	出席状況
第1回	令和5年6月5日(月)	泊高校本館2階大会議室	職員10名 評議員3名
第2回	令和5年10月23日(月)	泊高校体育館1階講義室	職員9名 評議員2名
第3回	令和6年2月5日(月)	泊高校本館2階大会議室	職員10名 評議員3名

2 学校評議員に求めた事項

- ①開かれた学校づくりの充実に関する意見、助言
- ②教育課程の充実に関する意見、助言
- ③学習指導、進路指導の充実に関する意見、助言
- ④生徒支援、教育相談の充実に関する意見、助言
- ⑤特別活動の充実に対する意見、助言
- ⑥健康安全に関する充実に関する意見、助言

3 学校評議員の意見

- ①学校経営方針を三部(定時制課程午前、夜間部・通信制課程)で共有し教育実践に繋げてほしい。
- ②就学支援センターの存在意義は大きい。就学への情報提供、高卒認定制度に関する手立てについて引き続き取り組んでもらいたい。
- ③泊高校の魅力や存在意義をどのように生徒・保護者・地域等に発信していくか。
- ④泊高校で学びを継続する生徒への組織体制としての取り組みについて知りたい。
- ⑤特別活動等における外部講師招聘した講話等開催での生徒の変容はどうか。
- ⑥時代が変化し、生徒も多様化する中、高校進学を悩む生徒の状況を考えると泊定時や通信制しかないと感じる。泊高校の支援体制の情報を必要な就学希望者に届けてほしい。

4 学校運営に反映した事項

- ①学校経営方針を学校要覧に明記、三部職員会議で周知し、年度初めの個人教育目標にリンクするよう育成評価面談を通して取り組みの確認を行った。
- ②「高等学校生徒就学支援センター」の意義を県主催の教職員研修機会を通して情報発信。ホームページの更新、支援の必要な生徒へ電話及びメール、家庭訪問を引き続き行う。
- ③学校ホームページの更新、学校説明会(中学進路担当、生徒、保護者、適応指導教室等)を年2回以上開催し、また、前後期入試前には説明会を随時受け入れ進路選択に生かせるよう取り組んだ。
- ④多様な背景を持つ生徒に対し、教育相談、就学継続支援員、スクールカウンセラーと連携した、寄り添いのある丁寧な支援体制、迅速なケース会議を心がけた。また、学び直しや「通級」での学校設定科目等の教育課程の工夫に取り組んだ。
- ⑤講話の中身も伝えるだけの内容からロールプレイを取り入れ、本校の実態に合わせ講話をお願いした。聞く態度や感想等成長が見られた。
- ⑥5月、10月開催「三部合同学校説明会」、8月開催「適応指導教室対象説明会」、中学校から依頼される「進路学習会」等へ参加。また、保護者からの依頼があれば、入試受付前に「保護者同伴説明会」を積極的に開催している。

5 課題その他

- ①学校経営方針にある「目指す教師像」を資質向上として更に継続し取り組んでほしい。
- ②相談支援体制や食支援を「SDGs食品ロスへ」の取り組みに置き換え生徒が受け取りやすい雰囲気づくり等先生方の生徒支援を感じることができ、「学校が楽しい」と思える居場所づくりを継続してほしい。
- ③通級の必要な生徒対応、高校における学びの保障、インクルーシブ教育等の充実に向け、どのように進めていくか。また、薬物乱用防止、オーバードーズや心の問題等医療関係(学校医)と連携し取り組んでほしい、泊高校の生徒支援に期待しています。